

第五十回全国短歌大会報告

中沢直人

第五十回全国短歌大会(現代歌人協会主催、朝日新聞社後援)は、六月二十一日をもって作品の応募を締め切った。応募者数は四四四名、応募歌数は二一三九首であった。新型コロナウイルスの感染拡大が「災害時に近い局面」(厚労

現代歌人協会会報 169

省専門家会議)ともいわれる状況の中、長引く閉塞感が応募数に影響しないかが心配されていたが、応募者数・応募歌数とも昨年を大きく上回り、多くの方々の短歌に対する熱い思いが伝わってきた。

今年度の選考経過は、以下の通りである。まず、応募作品集を一〇名の選者に郵送し、選者賞、秀作第一席、第二席、及び佳作一七首の選をした後、その結果を集計して八月六日にオンライン選者会議(進行・担当理事 東直子氏)を行い、全国短歌大会賞二一首、

朝日新聞社賞一首・学生短歌賞一首を決定した。その後、八月十二日の理事会において、医療提供体制が逼迫し、首都圏を中心に厳しい状況が続いていること等に鑑み、参加者の安全と感染リスクの回避を第一に考え、十月三十日(土)午後一時より東京・神田の学士会館にて開催の予定であった授賞式は中止することと決定された。昨年に続く授賞式の中止は残念であったが、十月の時点で都道府県境をまたぐ移動が可能か否かの見通しが立たない中、ぎりぎりの決定であった。

これに伴い、賞状・副賞は郵送し、選評も選評集としてまとめ、選歌集と共に応募者全員に送るほか、特別選評を録画し、協会HPで限定公開することとした。動画の公開は、現代歌人協会として初めての試みである。

受賞者・受賞作は次の通り。
*全国短歌大会賞

東村山市 岡本和子
マスク生活二年目に入り子どもらの眉濃くうごく夏がまた来た
市川市 小林重子
もう君のオルフェでなくて振り

向けばどの花野でも一人だと知る

*朝日新聞社賞

浜松市 尾内甲太郎
ウイルスに負けてもいいよ十字
架の赤いネオンは月へ触れそう

*学生短歌賞

豊中市 庄野酢飯
不揃いの野菜は安く売られおり
心臓のようなトマトを握る

*選者賞

奥田亡羊選 花巻市 安部勝衛
七万本の松の被災の砂浜に今
三万の苗青みたる

楠 誓英選

市川市 小林重子
もう君のオルフェでなくて振り
向けばどの花野でも一人だと知る

栗木京子選

浜松市 尾内甲太郎
生命を宿した過去のないビルで
人事へ告げる妻の臨月

黒瀬珂瀾選

浜松市 尾内甲太郎
ウイルスに負けてもいいよ十字
架の赤いネオンは月へ触れそう

小島なお選

三鷹市 風野瑞人
ステイということば何度も口にして
繋げるつもり ひとの渚にて

坂井修一選

市川市 小林重子
もう君のオルフェでなくて振り
向けばどの花野でも一人だと知る

富田睦子選

玉野市 林良三
元気なればコロナ禍なるも旅したし
居酒屋ゆきたし心くねくね
内藤 明選 渋谷区 大澤康男

菊さんの笑い顔には歯が三本歯科衛生士綺麗に磨く

東 直子選

京都市 津田純江
ホスピスの母は一碗のにゅうめんを啜りて命繋がると思う

渡 英子選

東村山市 岡本和子
マスク生活二年目に入り子どもらの眉濃くうごく夏がまた来た

特別選評においては、冒頭、今回の全体的な印象として、コロナ二年目であることは大きいのではないかと指摘が小島なお氏からあった。昨年はコロナに対する不安が多く作者の心を占めていたのに対し、今年は新しい生活を樂しむなど、明るい方向の歌が増えてるように思われるというコメントである。奥田亡羊氏も、今年さまざま新しい素材が登場し、前向きな歌が多くなってきているとの見方を示した。

大会賞の岡本作品は、オリジナルな季節のとらえ方がよい(小島氏)、「夏がまた来た」という結句が生きている(奥田氏)、小林作品は、不思議な空間を描き出すことに成功している(小島氏)、諦念とひんやりとした感触が魅力(奥田氏)との評を受けた。

栗木京子理事長のメッセージと奥田・小島両氏の特別選評から成る今回の動画は、次回の全国短歌大会まで約一年間の予定で応募者及び協会員向けに協会HPで限定公開されている。来年は会場での開催がかなうよう願っている。